

令和2年度第2回 旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日 時：令和2年11月25日（水）19時00分～21時00分

場 所：国立市役所3階 第1・第2会議室（一部委員はオンライン参加）

出席委員：秋田委員、磯部委員、木村委員、佐藤委員、鈴木委員、中村委員、藤田委員、藤本委員、洪委員、三島委員、宮崎委員

欠席委員：落合委員

事務局：国立駅周辺整備課 関野課長、外立係長、菱沼主査、藤堂主任
旧国立駅舎まちの案内所スタッフ 磯貝チーフ

記録（要旨）

1. 開会あいさつ

- ・鈴木会長より開会の挨拶があった。

（鈴木会長）本日は、委員皆さんのイベント提案をもとに、事前相談実演を見たり、やってみたりすることで、相談の仕方がより良くなるようなことをする。楽しんでやっていたらと思う。

- ・事務局より事務局側の参加者紹介、委員の出欠状況、本日の流れ、およびWeb参加する委員がおりオンライン会議併用である旨について説明を行った。

2. 前回の振り返り、会議の進め方について

- ・事務局より旧国立駅舎運営連絡会の前回の振り返りを報告した。
- ・事務局より本日の会議の流れ、特に事前相談ロールプレイを以下のように行うことを説明した。
 - ①事前相談シートの全体共有（事務局で報告したのち、イベントの趣旨等について提案した委員からも説明）
 - ②事前相談シートを使用した際の委員のご意見
 - ③事前相談のデモンストレーション（委員1名と旧駅舎担当）
 - ④各委員から提出いただいた申請書への赤ペン内容を共有
 - ⑤各委員間でのロールプレイ（3人1組で行い、相談する役・相談される役・客観視して気づきをメモする役に分かれる）
 - ⑥委員意見交換（相談しづらかった点・改善すべき点・疑問などの整理）

3. 旧国立駅舎運営状況について

- ・事務局より旧国立駅舎運営状況（9/24～11/10）について報告した。

（鈴木会長）引き続き、たくさんの魅力的なイベントをコーディネートしてくれたようである。課題も出していただいて、状況がよく分かった。委員から何か質問やコメントあるか。

（鈴木会長）備品不足ということだが、旧国立駅舎担当の方で「こういうものがあればいいな。」というものがあって、予算をつけるという話はあるのか。

- (事務局) 正直なところ、ここまでイベントで利活用されることを市役所側も当初想定していなかったのがこの事態になっているが、展示イベントをベーシックに成立させる備品をある程度来年度の予算に盛り込んでいる。ただし、コロナ禍で公共の予算も絞られるという話もあるので、必ずしも備品の拡充を約束できるわけではない。
- (鈴木会長) プレゼンの前半では良い感じの部分のみを見せてくれたのかもしれないが、後半ではコーディネートの難しさ・認識不足について書いていただいた。具体的なことは言いにくいだろうが、イベントを作るにあたってコンセプトとの整合性などで、もしご苦労されている部分があれば、もう少し補足いただきたい。
- (事務局) 旧駅舎でのイベントが、最終的にイベントのように見えているのであれば、まちの魅力発信拠点として成立しているものになっているからだと思う。それは、おそらく主催者の提案が、ある程度国立というまちの魅力を体現しているような情報や発信にかかっているならば、比較的ストレートにまちの魅力発信拠点というコンセプトの範疇に収まるのだと思う。今日もしかしたらロールプレイングで話が出るかもしれないが、まったく国立とは縁のない方の「国立で一番多く人がいるスペースで何か発信したい。」ということであっても、もちろん成立するところではあると思っているが、相手が頑なに自分たちのやりたい形に固執しているような場合に、少しぎくしゃくしたということがあった。
- (鈴木会長) 暴言を浴びせられたりするようなことがあるならば大変だなと思う。「お金を払うのだからスペースを貸して。」というようなやり方が自然と減るような認識の醸成、理解を作っていくことが、我々委員がお手伝いすべきことではないか。その辺を皆さんと共有しながらできたら良いと思う。
- (三島委員) 2点、質問する。申請でお断りした事例があったのであればお聞きしたい。また、札幌の会社と相談会をやった事例がレポートであったと思うが、それについて詳細をお願いしたい。
- (事務局) 相談で断ったということはないが、相談の過程で、こちらの態度が断ったと等しい態度に見えると先方がお捉えになり、クレームにつながったケースがある。2点目については、ジモトートという名前で、地域毎にデザインを変えて、それぞれのまちバージョンのトートバッグを作っている企画会社が札幌にある。こちらが東京の多摩を対象としたJIMOTOTE 東京・多摩シリーズを作るにあたって、多摩5市の中に国立市を選んでいただいております、東京多摩シリーズのデビューを、国立のデザインを皆さんから集める形の中でお披露目したいというイベントである。まちの魅力発信拠点としても合致するというので12月中旬に開催される。
- (洪副会長) 貸出備品について、自分も公共施設に関わっている中で難しいと思うところがあり、最初に想定したもの以外にニーズがあったりする。また、コロナ禍で欲しいものが変わってくることがあると思う。ただ、市の予算で全部というのはなかなか難しいと思うので、自治体等向けの寄付サイトで資金提供や物品を広く募集するみたいなものがある。例えば、「展示用のこういうものが欲しいというニーズがあるので、誰か提供してくれませんか。」と書けるサイトがある。少し寄付することでも運営に関わるような気持ちになる方もいらっしゃるのでは、今後そういうものを活用してみるのも良いと思う。特に消耗品は常に変わっていくので、そういう参加の仕方もあるのではないかと。
- (磯部委員) 何かと物を持つと管理が大変になるので、選択しながらうまくやるということ

と、例えば、地元でレンタルできるようなところがあれば、旧国立駅舎のためだからと割り引いてもらって、イベントする方々の必要に応じて「そこに相談してください。」というのもありではないかと思った。

4. イベント等の事前相談ロールプレイ

(鈴木会長) 事前相談するときに、できるだけ認識不足からスタートするのではなく、認識が揃っているところから、より良いものとなるように相談していく手助けになれば良いと思うので、今日はロールプレイをやって、その感想などを踏まえ、改めてみんなで考えていきたい。

- ・佐藤委員、三島委員、宮崎委員、および中村委員からの説明により、あらかじめ提案していただいたイベントについての事前相談シートの内容を共有した。

(鈴木会長) 皆さん具体的なイメージ持って書いてくださったことがよく分かったので、ロールプレイが楽しみになってきた。次に、事前相談シートを使ってみた感想をお聞きしたい。

(佐藤委員) 特に違和感はなかった。普通に埋めていけたので、埋めることに苦労はしなかった。なぜこんなことを聞くのかということも特になかった。ただ、「期待される成果」の欄は書きづらかった。旧駅舎にとっての成果なのか、開催側にとっての成果なのかが分からなかった。

(三島委員) 作りにくかったところは、「想定客層」の欄にある「目標来客数」である。今回の資料の来館者数データ推移から1日あたりの平均で概ね千人であることを考えると、自分の想定した人数の半分くらいが妥当性のあるものだと思ったが、こういった根拠のところが難しく感じた。また、イベントをやるにあたって入口に看板を置かせてもらえるのか気になった。備品については、「使いたい備品」、「持ち込もうとしている備品」を書けるようにした方が、お互いのギャップを防げるのではないかと思った。

(宮崎委員) 「使用希望日時」欄が書きづらかった。例えば、実際に使用する日が1週間で、その前後が準備・片付けの場合に、この展示に対して準備は何日で片付けは何日とか、午前・午後・閉館後とかに丸をするようになっていれば、もっと書きやすいと思った。三島委員と同様に目標来客数のところ、来館者数を知らない方が来客数の目標を作るというのは難しいと思った。

(中村委員) 思ったより書けないと感じた。郷土文化館で展示をやるときの企画案はもっと書くが、裏を返せば書きやすい・申請しやすいのではないかとも思った。項目については重なるが、展示の撤収と期間をどうしようかなというところで前後に取った。客数についても、かなり低く見積もったが、純粹に展示を見る人数だこのくらいではないかと考えたからである。カウントのやり方がもう少し明確になっていると書きやすいのではないかと思った。

(鈴木会長) いま挙がったご意見や感想について、旧国立駅舎担当からはどうでしょうか。

(事務局) シートを作った当時は、始めてみないと分からないというのが正直なところであった。そのため、実際に使ってみてどうだというご指摘は、ごもっともなところがたくさんある。ですから、連絡会を通じてそこら辺のギャップを改善していくということで、ご意見として賜りたい。

(鈴木会長) 具体的に聞くが、目標来客数はどのくらい必要としている数字か。

(事務局) この項目を特に注視はしていないが、他で何らかのイベントをやっている方の経験値や実績値から、「これくらいの人数を考えていて、それに伴って配布物の数量が決まってくる。」といったようなことがあるので、主催者側の考え方を確認したりはする。しかし、目標来客数の多い・少ないに対して、「それをどうこうしてください。」というようなことはない。

(鈴木会長) その辺の、皆さんが書くのに詰まったところは、書きづらいと感じさせないような相談シートの表記にすると良いかもしれない。相談シートにレイアウト図の添付がないことは、特に問題ないか。

(事務局) 事前相談の時には必要ない。

(鈴木会長) 事前相談に基づいて申請書を作りながら、「では、レイアウトはこんな感じですね。」のような形で進めていくことが分かった。細かい点でいろいろあったので記録しておいていただき、後々検討しましょう。

・三島委員と旧国立駅舎担当による事前相談のデモンストレーションを行った。

(鈴木会長) ハイレベルなやりとりでした。今の相談では、どういうイベントに育っていくと旧国立駅舎担当は感じたか。また、次のステップとして、三島さんとの次のやりとりはようになっていくか。

(事務局) まちの魅力発信拠点というところへの紐づけ、また、このコンテンツをよりパワーアップするような切り口、情報ネタみたいなものを持っているか打診したら持っているとのことだったので、ネクストステップとしては、イベント全体の構成要素や協力者を粗出しして、どんな形でできるのかというのを決める。その上で、具体的な展示点数や見せかたをイメージ・整理していただいて、申請書ベースで来ても、もう一回事前相談していただいても結構かなと思った。

(鈴木会長) そうすると、コンセプト的にはほぼOKということで、あと1回・2回で具体化できるということですね。今のデモはプロがやっていることなので、委員の皆さんは新米相談員の感じで構わないのでロールプレイをやってみましょう。

・3人1組で事前相談のロールプレイを行った。

(鈴木会長) どんな雰囲気の話が進んだか、どのような感想を持ったか等を共有したい。

(事務局) Aグループは事務局が佐藤さんの「くにたちまちなか写真撮影会」の相談をロールプレイした。提案が素晴らしかった為かもしれないが、相談シートの説明を聞いて質問はしたが、内容に突っ込みを入れるところがなく「いいですね。」という受け答えが多くなってしまった。また、ホームページで事前相談シートにたどり着くまでが分かりにくいという話が出ました。

(磯部委員) Bグループは三島さんが宮崎さんの提案を聞く形で行った。魅力の発信拠点というところにどこまで力を入れるかによって「提案をする」「提案を通す」のハードルの高さが変わってくる。提案をする側からすると、ある程度ハードルを下げるという意味では、魅力発信拠点にこだわると難しいところがあるのではないか。まずはこういう場があることを知ってもらうというのが策としてあるのではないか。ただ、市役所の立場になると、旧駅舎の使い方のコンセプトに合っているのか問われることになると思うのでさじ加減が難しいという話をした。また、実際にイベントするとき安全安心を確保するために、人の配置をど

うするのか、旧駅舎スタッフではなく自前で用意するのであろうがその辺はどうなっているのだろうかという話が出た。さらに、「使用期間が1週間以上の場合には却下されるのか、基準はどうなっているか。」「営利・非営利の線引きが難しい。」という話もした。

(鈴木会長) Cグループは秋田さんの提案を藤本さんが相談を受ける形で行った。進め方は上から下に順番にどういう意図かを聞きながらイメージを揃えていく感じだった。話の中心になったのは、「実際に桜の木を作る。」という提案で「どこにどれくらいのもので作って良いのか。」を提案者が分かっていないので、それを具体的に話しながら相談する形で、「この空間では具体的にこういうことができます。」のようなサポートを、相談を受ける側はしてあげられると良いという話になった。もうひとつ焦点となったのはプロモーションのこと。相談シートではプロモーションについて聞かれないが、デモを藤本さんが見習ってくれたのか、「どのようにプロモーションしましょうか。」を相談に入れてくれたのだが、プロモーションに気が回らない、発想がないという方がいるかもしれないので、相談員がアイデアを出したりサポートできたりすると良いという話をした。感想として、秋田さんから「シート作成時は、作ったものを誰が管理するのかという観点が抜けていた。」とのことで、事前相談があることによってそこに気づけるのは、この形式の良さなのかなと思った。また、「国立らしさ」についてロールプレイ中では深められていないと思い質問したところ、秋田さんから素敵なイメージを聞くことができた。実はそれは相談シートの「期待される成果・目標」に書いてあることだった。改善案として、「成果・目標」という言葉だと身構えてしまうので、「この提案の国立らしさはどこですか。」とすれば、秋田さんは「こういう国立にしていきたい。」というイメージをスッと出せたのではないかと。そして、市の視点ではそれが「成果・目標」に当たるものかもしれないという話をした。

(中村委員) Dグループでは、「くにたち あの日、あの頃～”あの頃”と今を比べて～」という写真展イベントについて事前相談ロールプレイをした。まちの魅力発信拠点としての旧国立駅舎とイベントをどう紐付けしていくかという点については、この企画のそもそものコンセプトなので、そこは合致しているとなったので、イベントについて突っ込むと言うより、この企画をどうしたらよくしていけるかに焦点を絞って話をした。ひとつネックとなったのが使用期間についてである。7日間が限度とされており、市民参加型にすることを考えると少し短いかなというところだ。また、写真を見るだけでなく、どうやって市民参加していただけるかについて考えた。具体的には、テーマを絞ってデートスポットとか、昔あった映画館とかの写真を集めるという案が出た。場所だけでなく、テーマによる今と昔の対比というやり方もありだという話になった。

(洪副会長) ロールプレイをしていて一番気になったことは、相談をする側も受ける側も、お互いに「こうですね。」「じゃあそれはこれでいいですね。」となったことを同じように最終認識できたかが残らないこと。例えば、「営利・非営利」や「発信につながるか」といったような話で、後で言っていたことと違うとなるかもしれない。だから、決まったことを書いた紙をお互いに持っておくようにすれば、次のときに同じ認識で進められるのではないかと。そして、クレームや認識違いのようなことが起きないのかなと思った。また、参加型イベントをコロナ禍でどうやるか悩ましいという話をしていたが、一緒に考えてブラッシュアップ

プできるので、相談は良いなと思った点である。すでに実施しているかもしれないが、実際にイベントをやってどうだったかを主催者側に聞いた方が、今後の運営に活かせるのではないかと。いわゆる事後アンケートであるが、「前にやった人はこうだったよ。」というようなことが相談で言えるようになる。

(鈴木会長) 気づきがたくさんあったが、使用期間が1週間を超えることについてと、お互いが合意したことを記録して共有したり、事後のやってみてどうだったかを聞いたりすることについて、旧駅舎担当に伺いたい。

(事務局) 特定の団体が長期間占拠するような状況を作らないように運用するためのものであり、機会均等ということで1週間をひとつの指標としてはいる。しかし、相手の意向と、長い期間使う必然性によっては1週間を超えてイベントをやった実績はある。ですから1週間が必ずしも最大限ということではない。打合せのプロセスで確認するような仕組みに関しては、既定のやり方で何かフォーマットを作っているということはない。事前相談シートに付随したかたちで確認をしていくだけが現状である。イベントの事後で主催者がどう思ったかについては、これまでのイベントをホームページに載せており、その中に担当者コメントとして入れるようにしている。これからやるイベント主催者が、過去のイベント主催者がやってみてどういう効果もしくは気づきみたいなものがあったかというのを、さらりとだが意識して入れている。

(鈴木会長) 今回は、「国立らしさ」がひとつ焦点になった。相談に来る方それぞれが「国立らしさ」を持っている可能性があり、それが必ずしも相談を受ける側と揃っていないかもしれないが、やりとり・対話があって、お互いに「それも”国立らしさ”かも」と重なっていくようなプロセスになっていくと「国立らしさ」が膨らんでいくのではと思った。ぜひそういうコミュニケーションのツールにこの相談シートおよび事前相談がなると良い。次回以降は、今日のフィードバックをどう活かしていくかを事務局と相談して考えていきたい。

5. 委員の改選について

- ・事務局より本連絡会の改選について説明を行った。

6. 次回について

- ・次回の日程は1月14日辺りで、欠席者と調整がとれ次第連絡することとなった。

(当日の様子)

